

(1) 町税及び国民健康保険税

ア 収納率について

① 町民税においては0・2ポイントの改善がみられましたが、町税の収納率は、前年度より0・3ポイント低い88・1%となっています。

総じて滞納繰越分の徴収率が低下しており、町税全体の滞納繰越分の徴収率が15・3%と、前年度より2・7ポイント減になったことが全体の収納率を引き下げている主な要因と考えられます。

② 国民健康保険税の収納率は、61・1%で、前年度より0・9ポイント向上しています。現年度分の徴収率が91・5%であるのに対し、滞納繰越分の徴収率は11・9%にとどまっている状況です。

イ 差し押さえ等の取り組みについて
① 本年度町税及び国民健康保険税の差し押さえは、預金60件、不動産2件及び搜索2件でした。

② 督促等の弛緩、滞納者への対応の遅れにより、安易に町税等が消滅時効とならないよう、今後も特に留意してください。

③ 近年、本町における税の徴収に対する取り組みは、滞納者に対する財産調査、搜索、差押通知書、催告書の発送など、厳しい姿勢が示されてきており、悪質な事例に関しては、差し押さえに踏み切るなどの対応が取られてきています。

このような取り組みの結果、現在残っている滞納繰越については、現実的に対応が難しいものに集約されてきているように思われます。しかし、高額滞納者など、より厳しい措置が求められる事案も残されており、今後の方針については、更に工夫が求められるところです。公正な税負担を実現するために、納税者が納得できる取り組みを更に進められるよう要望します。

(2) 住宅新築資金等貸付金及び町営住宅使用料について

ア 住宅新築資金等貸付金の収納率は6・5%で、前年度より1・1ポイント下がっています。現年度分については収納率が向上していますが、これは繰上償還が行われたことによるものです。

イ 町営住宅使用料の収納率は61・2%で、前年度より0・6ポイント下がっています。滞納繰越分の収納率は13・6%で、0・6ポイント改善しているものの、大きな効果を挙げている状況ではありません。今後の住宅政策も視野に入れ、町税の取り組みと足並みを揃えた対応のあり方を早急に検討

する必要があると思われまます。ウ 収納対策については、近隣の市も参考にし、効果につながる方策を大胆に検討してください。

(3) 保育料について

保育料の収納率は91・7%で、前年度より3・0ポイント向上しました。特に現年度分の収納率は99・9%に達しています。児童手当からの保育料支払いについて保護者の理解を求めるなどの取り組みが行われており、収納努力が評価される内容です。このことを基に、今後、滞納ゼロに向けて更に努力を継続してください。

3 国民健康保険特別会計について

国民健康保険特別会計においては、本年度の実質単年度収支が4652万1千円の赤字になっています。国民健康保険給付費支払準備基金も平成24年度末現在高は2612万5千円で、確実に目減りしている状況です。

このままでは、将来の収入不足が生じることは容易に想定できるところですが、今後の財政運営については、早期に対策を検討する必要があると思われまます。

水道事業会計

第1 審査の方法及び結果

水道事業会計は、その経営の経済性を発揮し、且つ公共の福祉の増進に適っているかという観点に特に意を用いて審査を行い、決算書、決算諸表及び明細書等については、固定資産台帳の一部を除き、計数は正確で、関係帳簿と符合しているものと認めました。事業の経営も健全に行われており、様々な指標も「概ね良好」な状況です。しかしながら、すでに公表されているように、水道課職員による横領事件が発覚する中で、本決算においても調定額の改ざん等による影響を受けた内容になっていきます。横領事件に係る決算への影響額等については、今後、横領額が確定し、それに基づいて表される次年度の決算において捕捉する必要があります。

第2 審査意見の要旨

1 経営成績、財務状況について

① 経営成績において、平成24年度の当年度純利益は3611万2千円で、前年度繰越利益剰余金2488万7千円と合わせた当年度末処分利益剰余金は6100万円で、また、経営資本営業利益率は2・63%で収益も良い状態です。

② 財務状況において、資産状態は企業債償還元金対減価償却費比率